

江府町国民健康保険



江尾十七夜イメージ
キャラクター「えびちゃん」

江府町は鳥取県内で最も人口が少なく、奥大山の天然水が有名です。江府町国民健康保険は、毎年特定健診の受診率が県内上位である一方で、鳥取県や県内同規模他市町村と比較して人工透析患者の割合が高く、それに伴う医療費の高さ、がん精密検査受診率100%未到達、骨折・筋骨格系疾病の医療費の高さ、歯科健診受診率の低さ等が課題となっています。

●江府町国民健康保険の状況(令和3年度)

被保険者数 **517人**

女性 男性
257人 260人

年間医療費 **215,573千円**

一人あたり医療費 **417千円**

*特定健康診査受診率 45.9%

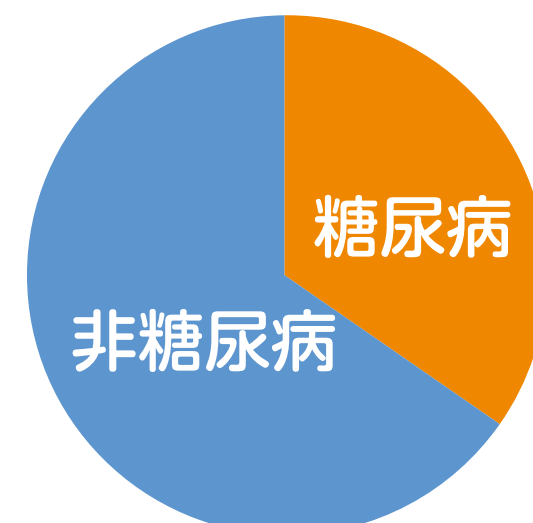
*特定保健指導実施率 15.4%

*令和2年度速報値



●国保連と連携した慢性腎臓病重症化予防事業

令和3年度から国保連合会に医療・健診データを用いたデータ分析を委託し、分析の結果、高血圧性疾患発症予防・人工透析への移行予防の必要性和、慢性腎臓病で人工透析移行リスクが高い人のうち、約6割が非糖尿病性腎症だとわかりました。今後、主治医と連携し、保健事業を行う予定です。



江府町には、国保直診を有する施設が2つあります。それぞれの特徴や理念をご紹介します。

江府町総合健康福祉センター 平成12年4月～

保健医療福祉の総合拠点である当施設には、国保直診である江尾診療所と行政機関である江府町役場住民生活課の一部があります。診療所長である医師は住民生活課参事の役職を担い、行政の取り組みに参画しています。保健・医療・福祉の3領域での気づきや健康課題を共有、総合的に施策化を行えるということは本町の特徴であります。



俣野ふれ愛学舎(俣野診療所を併設) 平成31年4月～

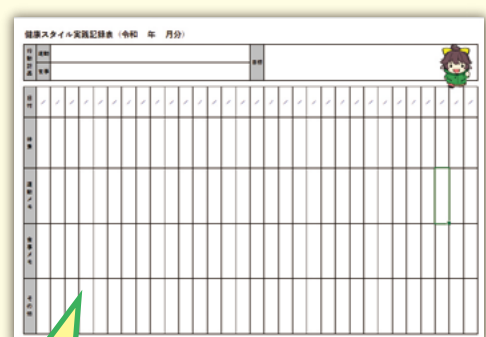
住み慣れた地域で元気で暮らしていくための仕組みづくりを目的に立ち上がりました。当施設は国保直診である俣野診療所を併設し、生活に沿った医療・指導を提供しています。医学部の実習生や医師の初期研修等の受け入れを通じて、地域医療の心をもつ医療従事者の育成も行っています。管理運営は「江府町の地域医療を支援する会」という住民団体が担っています。



健康増進に向けた取り組み

●国保直診と連携した栄養相談

江尾診療所の医師から依頼があった患者さんに、無料の栄養相談を実施しています。直診であるからこそ、相談者の情報収集や医師への直接相談がすぐにできます。栄養相談を受けた方からは「食事を改善したことで血液検査の数値が改善した」「定期的に相談できるのでやる気が出る」などの感想が寄せられています。



記録表を記入することで、やる気につながります!というお声もいただいています。

栄養相談時に
必須のフードモデル



●運動支援

江府町では「ウエルビクス運動」を推進しており、現在16グループで活動されています。「ウエルビクス運動」とは、「高齢になっても自立した生活を維持できるようにするために有効」な運動の組み合わせの総称で、「有酸素運動」、「筋力づくり」、「バランス運動」、「柔軟運動」をまんべんなく取り入れた運動です。



ゴムバンドを使った運動の様子



時にはゲームなどで盛り上がります